

# 志を立て未来をつくる

自分の生き方を社会との関わりの中で考えさせることによって  
夢を志に高め未来を創造する力を育む

未来を  
創造



・各教科の学びと社会とのつながりを意識させ、自己の在り方や生き方を考えさせる  
・体験的な学習を通して、自らの価値観や考え方を形成、確立させる  
・主体的かつ協働的な取組によって、将来職業を通して社会に参画できる人材を育てる

高等学校

全学科を対象

- キャリア形成支援事業
- インターンシップ推進事業
- 起業家精神育成事業

専門学科を対象

- 高校生未来の職業人育成事業

じぶん未来学

・自己に対する肯定的な理解とともに、生き方や進路について現実的に考えさせ、地域や社会における自分の役割や責任について自覚できるようにする

中学校

各教科等における主な取組

- ・職業調べ
- ・高校調べ
- ・職場体験学習
- ・高等学校一日体験学習
- とちぎふるさと学習

・様々な教育活動の中で身近な人や地域と関わる体験活動を設定するなど、自己や他者への関心を高め、夢や目標を持てるようにする

小学校

各教科等における主な取組

- ・まち探検
- ・職場見学学習
- ・社会科見学（公共施設や企業等）
- ・中学生との交流活動
- ・中学校訪問
- とちぎふるさと学習

県教育委員会の関連事業一覧

事業名	概要
とちぎふるさと学習 推進事業 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料①</span>	<p>○とちぎふるさと学習資料集やホームページ等を活用し、小・中学校段階の児童生徒に、授業の中で本県の歴史や文化、自然や産物等の理解を図る。</p> <p>※本県の歴史等の理解を深めるため、高等学校では「とちぎから見る世界と日本」を作成、活用。</p>
とちぎの高校生 「じぶん未来学」 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料②</span>	<p>○県立高等学校、特別支援学校高等部に、とちぎの高校生「じぶん未来学」冊子を配布。</p> <p>※小山高専、宇大附属特別支援学校、私立高校にも配布。</p> <p>○3年間で、6つの視点、12のプログラムを、プログラムの内容と関係のある教科、総合的な学習の時間、特別活動の時間などを活用して、教科担任や学級担任が実施。</p>
キャリア形成支援事業 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料③</span>	<p>○県立高等学校 61 校・県立特別支援学校 3 校で実施。</p> <p>○専門学科では、民間企業から技術者等を外部講師として招へいして授業を実施。</p> <p>○普通科では、地域における体験活動や、大学や産業界のスペシャリストによる出前授業や講演会などを実施。</p>
インターンシップ 推進事業 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料③</span>	<p>○県立高等学校 32 校が実施 (H30)。</p> <p>○主に第2学年を対象とし、地域の企業等で1～5日間程度の就業体験を実施</p>
起業家精神育成事業 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料③</span>	<p>○県立高等学校 7 校で実施 (H30)。</p> <p>○地元企業の協力を得ながら、地域の課題や生徒自身の気付きをもとにして、商品の開発や販売促進活動等を企画、実践。</p> <p>○実践したことを発表し、企業経営者が講評。</p>
高校生未来の職業人 育成事業【H30 新規】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料③</span>	<p>○県立高等学校（専門学科）18校で実施。</p> <p>○栃木県産業教育振興会会員企業の技術指導等を受けながら、学んだことを社会の中で実践する活動を高校生が主体的に企画立案。</p> <p>○実践したことを地域に発信。</p>

## 「とちぎふるさと学習」について

◇「ふるさと学習」とは  
小・中学校段階の各教科、総合的な学習の時間、特別活動等において、ふるさと（地域（学区）、市や町、県）をフィールドに、ふるさとにある素材（ひと、もの、こと）を教材として進める学習。

◇「ふるさと学習」のねらい  
国際社会で生きていくためには、諸外国の様々な異文化や習慣を理解し、尊重できるようにすることが重要である。しかし、その前提として、自国の歴史や文化、習慣などを適切に理解し、そのよさを大切にする心の育成が不可欠である。  
そこで、身近な地域や県内にある素材を教材化し、「ふるさと“とちぎ”」で生きているという自覚を高めるとともに、「ふるさと“とちぎ”」を大切にする心を育てていく。

◇主な取組  
とちぎふるさと学習資料集「みんなで学ぼう！栃木県」「もっと学ぼう！栃木県」を作成・配布し、とちぎふるさと学習ホームページと併せて授業での活用を促進している。

◇とちぎふるさと学習の資料集やホームページを活用するなどして、「ふるさと学習」に取り組んだ学校の割合（H28年度）・・・85.1%

### ◇これまでに作成した資料

#### ○「とちぎふるさと学習」資料集「みんなで学ぼう！栃木県」

- ・平成27年3月発行（配布は4月）
- ・A4判カラー72ページ 40,000部作成
- ・県内全公立小中学校に1学年分配布

〔内容〕

栃木県の概要と、各市町の「ひと・もの・こと」の中で、栃木県の子どもたちに知って欲しい事柄を掲載したもの。



#### ○「とちぎふるさと学習」資料集「もっと学ぼう！栃木県」

- ・平成28年3月発行（配布は4月）
- ・A4判カラー80ページ 40,000部作成
- ・県内全公立小中学校に1学年分配布

〔内容〕

栃木県の自然、産業、歴史、文化について、各教科等の学習での活用を想定し、学習内容と関連の深い事柄について、詳しくまとめたもの。



#### ○教員用「とちぎふるさと学習」資料集等活用啓発リーフレット

「とちぎふるさと学習のすすめ」（配布は4月）

- ・平成28年3月発行
- ・A3二つ折り4ページ 13,000部作成
- ・全公立小中学校教員に配布

#### ○現職教育資料第470号

「とちぎふるさと学習」の推進～資料集等の効果的な活用にあたって～

- ・平成29年3月作成（配布は4月）
- ・各学校に1部配布
- ・ホームページに掲載

### ◇ホームページ関係

平成18年度	ふるさと学習推進委員会発足「栃木ふるさと学習教材集」作成
平成19年度	平成18年度作成の資料を活用した実践事例作成
平成20年度	教員向け郷土学習啓発パンフレット作成
平成21年度	「とちぎふるさと学習」推進チームを設け、推進会議を実施
平成22年度	緊急雇用創出事業「新とちぎふるさと学習HP作成等業務委託事業」において、ホームページの統合、作成
平成23年度	「とちぎふるさと学習」ホームページ運用開始、修正作業等
平成24年度～	修正、データ等更新

# とちぎの高校生「じぶん未来学」について

## 課題

子育てに対する悩みや不安を抱え、しつけや教育の仕方が分からない若い世代の親の増加  
 すべての保護者に対する家庭教育支援の必要性  
 地域で子どもを育てる意識の向上、定住意識の醸成

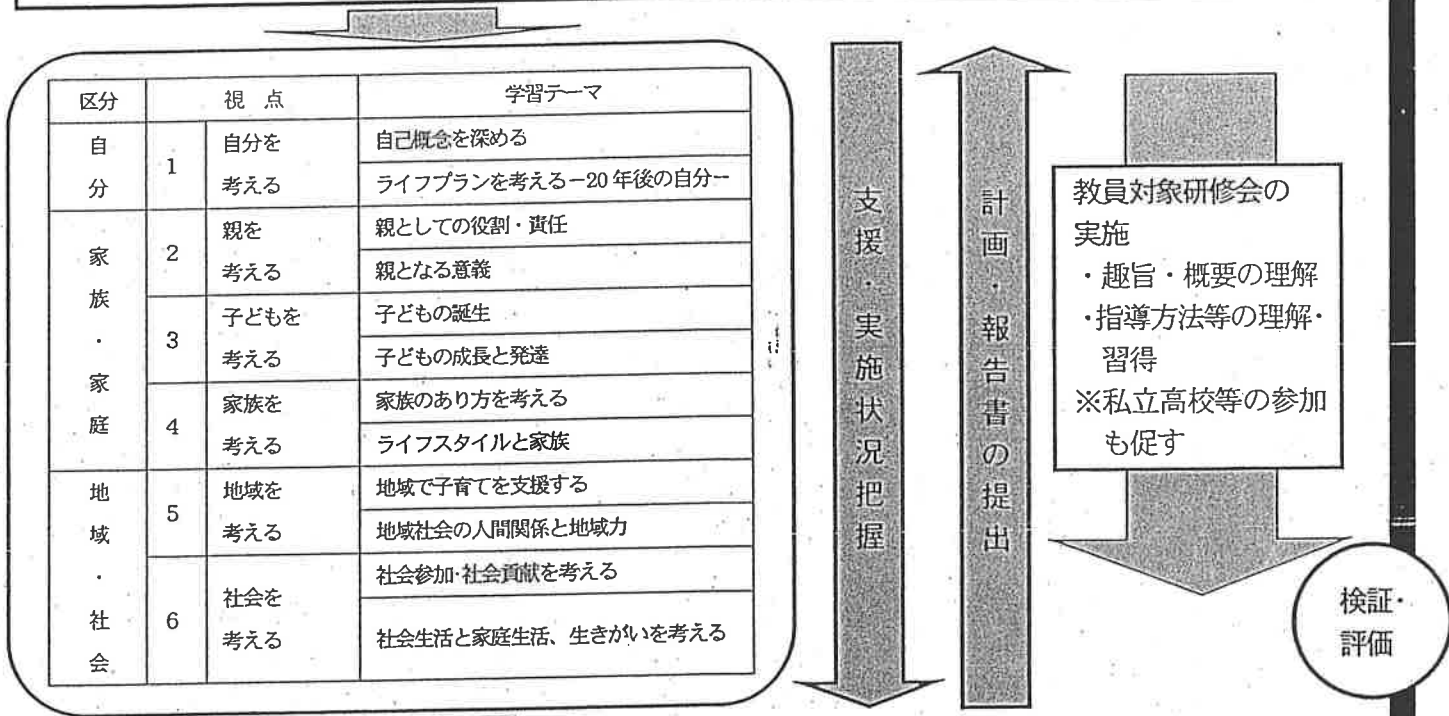
やがて親となる世代である高校生に、親・家族・家庭などの意義や役割、地域や人間関係など地域社会について主体的に学ぶことにより、次世代を育成し、地域への愛着や定住意識の醸成を図るとともに、地域を支え守る気持ちははぐくむため、とちぎの高校生「じぶん未来学」プログラムを開発し、実施する。

## 「じぶん未来学」企画委員会（年2回）

委員：（19名）大学教授、関係機関・団体、県子育て・青少年健全育成関係課・教育委員会関係課、高等学校代表  
 役割：栃木県の実情に合わせた事業の企画・実施・検証・評価

## 生涯学習課

企画委員会の運営、教員対象研修会の実施、実施校支援、検証のための実施状況の把握 等



## 「じぶん未来学」実施（平成28年度入学者～）

- プログラムを3年間で学習
- 関係教科、総合的な学習の時間、特別活動の時間の活用
- 教科担任、学級担任等による実施

## 期待される効果

### 高校生

- ・親・大人として必要な心構え・知識
- ・家庭を持つ意義・充実感
- ・社会の一員としての自覚
- ・地域への愛着

### 保護者・大人として

- ・家庭教育への正しい理解
- ・親・大人としての責任感
- ・家族・家庭への深い愛情
- ・次世代育成の意識向上

### 地域の一員として

- ・地域や人間関係の構築
- ・子育て環境の向上
- ・地域を支え守る意識の向上
- ・定住意識の向上



# 高等学校におけるキャリア教育関連事業について

栃木県教育委員会事務局学校教育課

全学科対象

**キャリア形成支援事業  
〔継続〕**

- 県立高等学校 61 校及び職業系専門学科を設置する県立特別支援学校 3 校で実施
- 教員が授業計画を立てて実施
- 大学や産業界等のスペシャリストによる出前授業や講演会
- 企業等における体験活動、地域全体をフィールドとした探究活動等。

↓

**専門的な知識・技術を習得する**

**インターンシップ推進事業  
〔継続〕**

- 普通科・総合学科 9 校と専門学科 23 校の計 32 校で実施
- 主に第 2 学年を対象とし、クラスまたは学年単位で
- 職場で対応が可能な範囲で仕事を体験

↓

**働くことの意義を考えるきっかけとし  
学ぶ意欲を高める**

**起業家精神育成事業  
〔継続〕**

- 全県立高等学校が対象
- プランを一つ選択して、事業を実施する

**【ベーシックプラン】**  
普通科、総合学科が対象。選定された学校が、起業に関する基礎的な内容を学習する。

**【プロフェッショナルプラン】**  
全ての学科が対象。選定された学校が、連携する企業からの継続的な指導を受けながら商品開発等を行う。

↓

**判断力、創造力、コミュニケーション能力、チャレンジ精神、決断力の育成**

職業系専門学科対象

**高校生未来の職業人  
育成事業〔新規〕**

- 県立高等学校（職業系専門学科）18 校で実施
- 企業と連携のもと、高校生が主体的に計画を立てて実施
- 高校生が企業からの技術指導を受け、主体的に活動

活動例

- ① 高校生が電気工事会社と打合せをして、学んだ技術をどのように役立てるか、主体的に考える。
- ② 公園の灯りが少ないことに気付き、電気工事会社の技術指導を受け、公園の電灯を修繕する。
- ③ 活動を振り返り、今後の活動の展望をまとめる。市役所に、今後の展望を提案する。

↓

**高校生が世代間のつながりの核となること  
によって、自己有用感を高め、より良い社会を目指して、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。**

これまでの各学校の取組は、授業における取組の延長線上であり、教員の指導計画に沿ったものであった。  
そこで、生徒が社会の中で主体的に考え、実践することを重視する事業とし、国が示す資質・能力（※）の向上を目指す。

※ 育成を目指す資質・能力の三つの柱  
(H30.3 高等学校学習指導要領)

```

graph TD
    A[学びに向かう力  
人間性等] --- B[どのように社会・世界と関わり、  
より良い人生を送るか]
    C[「確かな力」「健やかな体」「豊かな心」を  
総合的にとらえて構造化] --- D[何を理解しているか  
何ができるか]
    C --- E[理解していること・できる  
ことをどう使うか]
    D --- F[知識・技能]
    E --- G[思考力・判断力  
表現力等]
    B --- H[本事業で  
目指す  
ところ]
    
```

参考 職業人として必要な資質・能力について (H28.12 中教審答申)

- 職業に関する各教科の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ① 各職業分野について（社会的意義や役割を含め）体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。
- ② 各職業分野に関する課題（持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化への対応等）を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。
- ③ 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。